

梅雨も開けて、いよいよ夏本番！お外が大好きな子にはワクワクするような季節ですが、気温が高く、湿気の多い日が続く季節に圧倒的に増えてくるのが「皮膚炎」、「外耳炎」です。今回はその皮膚炎、外耳炎についてお話します。



ベッリアニマルクリニック瀬戸 児玉孝史先生

症状

- ・皮膚や耳が赤くなる
- ・発疹ができる
- ・毛が抜ける
- ・痒がる



当然ワンちゃんネコちゃんにとってはかなりの不快感が生じますし、我慢が出来ない程痒くなってしまったり、痛くなるとどんどん悪化していきます。



中には皮膚がめくれたり、皮膚に穴が開いたりすることもあります。

原因

- ・細菌やカビなど感染
- ・ノミやダニの寄生
- ・アレルギー
- ・ホルモン異常
- ・自己免疫疾患
- ・腫瘍
- ・心因性 など



夏場は要注意！！

細菌やカビによるものや、ノミ・ダニの寄生によるものは、夏場に増える代表的な皮膚炎・外耳炎の原因と言えます。さらに最近増加しているアレルギー性皮膚炎も夏場に悪化することがありますし、他の原因による皮膚炎も同じことが言えます。

予防

予防としてはやはり清潔に保つことが一番です！！

被毛が存在しますので夏場には熱や湿気がこもり細菌やカビが繁殖しやすくなります。



- ・汚れや毛玉、毛のもつれを取り除いて通気性をよくする
- ・皮膚はシャンプーやトリミング、耳は中の毛を抜き洗浄を定期的に行う
- ・ノミ・マダニの寄生が考えられる地域は予防を忘れずに行う

定期的なこれらのことをやることで皮膚炎・外耳炎の予防になりますが、さらにもし異常があったときに早く気付いてあげることもできます。なんか変かな？と思ったら、早めに一度獣医師に相談しましょう！！

松波動物病院

名古屋市天白区中砂町515

052-833-1111

<http://www.matsunami.co.jp/>

上社ペットクリニック

名古屋市名東区上社1丁目506

052-776-1010

<http://www.matsunami.co.jp/kpc/>

ベッリアニマルクリニック瀬戸

瀬戸市東横山町92番0-SC1F

0561-89-7400

<http://www.matsunami.co.jp/vacs/>



めざせ！ジェントルわんこ



担当：酒井 結己子（トレーナー）

大切なワンちゃんをみんなに可愛がってもらいたい…と思いますよね。ワンちゃん好きの人だけではなく苦手な人もいますので、大切なワンちゃんが社会に気持ちよく受け入れてもらうために、飼い主さんひとりひとりがマナーを守りお出かけを楽しみましょう！！

1. 持ち物

手ぶらはNG!!毎日のお散歩には『ウンチ袋、トイレットペーパー、水(オシッコやウンチをしたあとに洗い流すため)』は必ず携帯しましょう。

2. 外出中は常にリードをつける

「うちの子は良い子だから大丈夫♪」というのは間違いです。大きな音がした時など突然の出来事にワンちゃんは驚いてパニックになってしまいます。ノーリードではワンちゃんのコントロールが効かず、他の人に怪我をさせてしまう危険性があります。また、車道に飛び出す危険性も！万が一の事故を防ぐために必ず装着しましょう。


3. ロングリードは周囲の迷惑にならない場所で使用する

道路では突然飛び出して事故に合う危険があるので短くしてロックをかけましょう。自由に遊べる広場など、周囲に人がいない場所でロングリードを使いましょう。

4. 他人の迷惑にならない場所でウンチやオシッコをさせましょう

他人の家の門や壁、車のタイヤ、公園内の砂場など、迷惑を及ぼすことがある場所ではさせないようにしましょう。また、ウンチやオシッコの跡は必ず持参したお水で流すようにしましょう。

5. ウンチは持ち帰る

ウンチの放置は悪臭を放ったり景観を損ねるだけでなく、寄生虫や細菌感染を起こす可能性があるため、散歩中にしたウンチは必ず持ち帰りましょう。 

仔犬ちゃん大集合♪

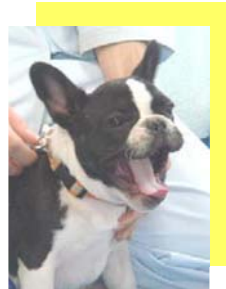
ワンちゃんにとっての生後6ヶ月までの年齢は、“社会化期”と呼ばれ、人間でいえば幼稚園から小学校低学年ぐらいまでの時期に当たります。人間と同じようにワンちゃんもこの時期の様々な体験を通じて、人間との生活で必要なしつけやワンちゃん同士のお付き合いの方法を学ぶ大切な時期です。

そのため、当院ではパピースクールを開催しております♪この機会に同じぐらいの年齢で1回目のワクチンを打ち終わったワンちゃん同士で触れ合い、正しいしつけについて一緒に楽しく勉強しましょう。皆様の参加を心よりお待ちしております！

★開催日時 本院：毎月第2日曜日
上社：毎月第3日曜日
瀬戸：毎月第2土曜日 } 13:30～14:30

★対象年齢 1回目ワクチン接種後～6ヶ月のワンちゃん

★要予約！！ 各病院受付またはお電話でご予約ください



※本院・瀬戸ではワンちゃんのお手入れのお話もします♪

詳しくは本院トレーナー佐藤・酒井まで



快適に夏を過ごそう



暑〜い夏がやってきました！！人と違って汗をかくことで体温調節のできないワンちゃん、ネコちゃんにとって、夏は大変な季節です。より快適に夏を過ごせるように工夫してあげましょう。



お散歩

お散歩は、早朝や晩の涼しい時間帯に行いましょう。

夏場の炎天下でアスファルトの表面温度は、50度近くになることもあります。人間よりも地面に近い場所にいるワンちゃんにとって、夏場の日中のお散歩はとても辛いものです。

お留守番

部屋の中は風通し良くし、快適な湿度、温度を保てるようにしておきましょう。

狭いところではなく、ワンちゃん、ネコちゃん自身が居場所を選べるよう、ある程度の広さの部屋でお留守番させましょう。また、エアコンをつける場合、エアコンの冷気は低いところにたまるので、人より低い位置にいるワンちゃん、ネコちゃんに配慮して温度設定しましょう。（外気温や部屋の構造等によっても違いますが、25〜27℃程度）屋外飼いのワンちゃんの場合は、直射日光が当たらない風通しのよい日陰にいられる様にしてあげましょう。

また、食べ物が傷みやすい季節ですので、フードは置きっ放しにせず、水は常に新鮮なものを置いておきましょう。



ブラッシング

皮膚トラブルの予防のためにブラッシングをしてあげましょう。

換毛期に抜けきらなかったアンダーコートが残っていたり、被毛がもつれてできる毛玉があったりすると、暑さで蒸れて通気性が悪くなり皮膚病の原因となります。アンダーコートを取り除き、毛玉を防いですっきり涼しくさせてあげましょう。



ノミ・ダニ

夏場はノミ、ダニの活動が活発な季節です。「室内で飼っているから」と安心はできません。

いつものお散歩コースで、ノミ、ダニが寄生してしまうこともあります。ノミの寄生はアレルギー性皮膚炎を起こしたり、瓜実条虫の寄生や、貧血を起こすこともあります。マダニの寄生は貧血や皮膚炎だけでなく、犬バベシア症、猫ヘモバルトネラ症などの恐ろしい病気を引き起こす原因となります。月1回、首筋に滴下するだけで予防できるお薬があります。寄生する前に予防することをおすすめします。

その他の工夫

上記の対策にもうひと工夫として、保冷剤入りのバンダナを首に巻いたり、市販のクールマットを敷いたり、保冷効果のあるグッズを活用するのもよいかもしれませんね。（ただし、保冷剤を誤食しないようご注意ください。）



マダニによるこわ〜い病気

担当：長江 幸恵（AHT）

暑い毎日が続いておりますが、いかがお過ごしでしょうか？
今回は、この時期に多く見られる、マダニの寄生についてお話したいと思います。
皆さんは“マダニ”の実物をご覧になられたことはありますか？

恐るべしマダニの生態

生息地は、主に山や川、牧場などの屋外環境で、草むらにひそみ、動物がやってくるのを待ち受けているのです。

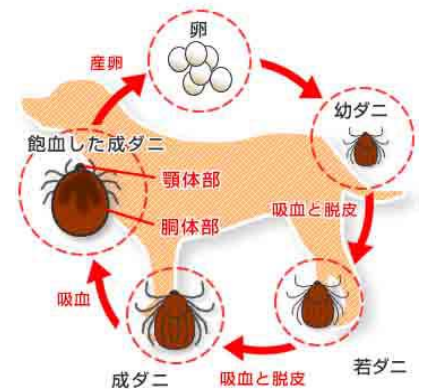
マダニは動物からの熱や振動、二酸化炭素を感知し、動物を見つけ寄生するという特技を持っています。

マダニは動物の血液をエサとし、動物の体の上で頭や耳、目のふちなど皮膚が薄い所を探し、そして口からセメント状の物質を出し、しっかりと動物の体に付着します。

こちらがマダニです！
左から若ダニ、成ダニ、
さらに吸血をした
成ダニです。



[マダニのライフサイクル]



もし、マダニが寄生していたら！

無理矢理引っ張ってしまうとノコギリのようなくちばしとセメント状の物質で体にしっかりと付着しているので、無理に引っ張って取り除こうとすると、動物の体にくちばしが残ったり、うまく抜けても傷口から細菌が入ってしまい感染を起こしてしまうこともあります。

なので、寄生していることを見つけたらすぐに病院での対処を受けてください。

マダニによる被害

マダニは様々な病気を媒介しますが、動物だけではなく人に対しても被害をもたらす場合があります。

◆ 犬バベシア症

血液に寄生する原虫で、重度寄生すると**赤血球を破壊**し、**貧血**を起こし、発熱、食欲不振、急性な場合は**黄疸**や**衰弱**などの症状が現れます。現在、バベシア原虫を完全に駆除できる治療薬はなく、**死に至る**こともある恐ろしい病気です。

◆ ライム病

犬：**神経症状**、跛行、発熱、元気消失などの症状が見られ、この病気は**人にも感染**することがあります。
人：感染初期にはマダニの刺し口を中心に**紅斑**が見られ、その後、皮膚疾患、神経症状、関節炎などの症状が見られるようになります。

◆ 猫ヘモバルトネラ症

ヘモバルトネラ フェリスという**菌の感染**により**貧血**、元気消失、体重減少、食欲不振などの症状が現れます。ウィルス感染や色々なストレスを受けると症状が悪化してしまいます。

マダニは、野外環境で生活をしているので、通常であれば、マダニが人の生活圏内に入り込んでくることはほとんどありません。しかし、人とペットの関わりが密接になっている今、ペットを介して人とマダニの距離が縮まっていることも事実です。ペットの健康を守るためだけでなく、自分自身の健康を守るためにもペットにつくマダニを予防・駆除していただきたいと思います。

